

グリーン経営認証を取得

飲酒チエツクなどで信頼性向上

産業廃棄物の収集運搬を手掛けるヤマゼン運輸(三重県伊賀市)は、「グリーン経営認証」を取得した。廃棄物の収集運搬業で同認証登録を取得した例はまたあまりないという。同社は昨年二月には携帯電話と専用アルコールチェッカーによる飲酒チェックシステムを導入。一年が経過して社内外に取り組みが浸透してきている。こうした認証取得や独自の取り組みを行っていく中で、顧客信頼性のさらなる向上を図っていききたい考えだ。



グリーン経営認証は、交通エコロジー・モビリティ財団が国土交通省、全日本トラック協会等の協力を受けて創設。グリーン経営推進マニュアルに基づき一定レベル以上の取り組みを行っている事業者を認証登録する。トラック運送業者向けの認証制度となっている。最近ではトラック協会が運送業者に認証取得を奨励

収集運搬車両に認証取得のマークを貼付

している。

同社はマニュアルに基づく環境改善の努力を客観的に証明することで社内の取り組み意欲向上を図るとともに、活動をアピールして顧客の信頼・安心を二層獲得していくことを目的に認証取得を決めた。同社輸送部の前田節部長は、「同認証制度は青ナンバーを対象にしていることもあり、廃棄物の収集運搬業で取得した例はまたほとんどないのでは」と話す。

グループ会社のヤマゼンではISO14001

を取得しており、同社でも環境保全への取り組みをアピールするため取得を検討していた。しかし、運送業のISO14001取得は難しい面も多いため、まずは運送業向けの認証であるグリーン経営認証を取得することにした。

同認証取得に当たっては「特に新しい事に取り組んだというより、従来の取り組みを整理したと

いうのが大半だったの

西・東海地区で初めて、携帯端末のテレビ電話と専用アルコールチェッカーによる飲酒チェックシステムを導入した。運転前のドライバーにアルコール測定を義務付け、そ

れをパソコンでリアルタイムに把握、管理している。導入一年で、「ドライバーの意識も一層高まり、顧客にも安心感を与え、効果があった」とし

ている。全車両を対象にGPSで追跡管理を行うシステムも導入しており、今後も様々な新たな取り組みを取り入れ、安全性、信頼性向上に取り組みしていく方針だ。

方最終処分場は二三五施設と二四三施設の減少となった。新規に許可を受けた最終処分場は三二施設で、前年度に比べ八六施設減少した。

処理業の許可件数は、前年度より二万五二〇四件増加し、二八万二六八件となっている。特別管理産業廃棄物の許可件数は二万五七二件。最終処分場の残存容量は約一億八二五万立方mで、前年度から約一四二万立方m(〇・八%)増加した。〇五年度の最終処分量(二四三万t)及び〇六年度四月一日現在の最終処分場の残存容量から最終処分場の残存年数を推計すると、全国では七・七年だが、首都圏(最終処分場六五九万t、残存容量二二二九万立方m)では三・四年と依然として厳しい状況にあることが分かった。